

知床の推薦・登録の経緯について

1. 登録までの流れ

時期	地域	国	世界遺産委員会/IUCN	
2003年 (H15)	5月	世界自然遺産候補地検討会により候補地3地域の選出(26日)		
	7月	推薦書原案作成開始	第27回世界遺産委員会	
	8月	地域連絡会打合せ(22日)	各学術分野の専門家へのヒアリング開始	
	9月	地域連絡会打合せ(17日) 地域連絡会議準備会合(29日)		
	10月	第1回地域連絡会議(27日) (注1)	世界遺産関係省庁連絡会議(16日) 推薦方針の決定	
	11月	第2回地域連絡会議(5日) 管理計画案への一般意見の募集(7日~27日) 地元説明会の開催	推薦書草案(学術部分) 英文完成	
	12月	第3回地域連絡会議(5日) 第4回地域連絡会議(15日) 管理計画(案)とりまとめ		
2004年 (H16)	1月	管理計画の正式決定(15日) 暫定リスト提出 (15日) (注2) 世界遺産関係省庁連絡会議(16日) 推薦書提出 (30日)		
	6月		第28回世界遺産委員会	
	7月	第5回地域連絡会議(7日) 第1回科学委員会(8日) (注3)	IUCN現地視察のための国内専門家による現地準備視察	IUCNによる現地視察 、現地説明会(20~26日)
	8月			IUCNから日本政府への追加質問(20日付け)
	9月	第6回地域連絡会議(24日)		
	11月	第7回地域連絡会議(2日)	IUCNからの追加質問への回答(5日付け)	
	12月			IUCN評価委員会開催
2005年 (H17)	2月	第2回科学委員会(15日)		IUCNから日本政府への再質問(2日付け)
	3月	第8回地域連絡会議(24日)	IUCNからの再質問への回答(30日付け)	
	5月			IUCNの評価報告書(知床につき記載が適当と勧告)
	7月			第29回世界遺産委員会にて登録が決議

注1：地域連絡会議の正式名称は「知床世界自然遺産候補地地域連絡会議」

注2：暫定リストの提出時期は、旧作業指針の期限によるところ(現作業指針では推薦の1年前まで)

注3：科学委員会の正式名称は「世界遺産候補地科学委員会」

2. 第29回世界遺産委員会における「知床」の審査結果

1) 概要

審査は、現地時間7月14日11時20分～11時30分にかけて行われた。まず、IUCNによる「知床」の評価内容の発表の後、日本を除く世界遺産委員国によって議論が行われ、「知床」を世界遺産一覧表に記載することを含む決議案が採択された。

同決議案は、会期最終日の17日に正式に採択された。

知床の審査時における主な議論の内容は次のとおり。

- ・ チリ、中国、ナイジェリアの各委員国から登録に対する支持があった。
- ・ 公衆参加、準備に当たったの努力について評価された。

2) 登録基準とその理由

「知床」に適用される登録基準は以下のとおり。

「生態系」

- ・ 知床は北半球で最も低緯度に位置する季節海氷域であり、季節海氷の形成による影響を大きく受け、特異な生態系の生産性が見られるとともに、海洋生態系と陸上生態系の相互関係の顕著な見本である。

「生物多様性」

- ・ 知床は多くの海洋性及び陸上性の種にとって特に重要であり、これらの中にはシマフクロウ、シレットコスミレなど多くの希少種が含まれている。
- ・ 知床は多くのサケ科魚類、トドや鯨類などの海棲哺乳類にとって世界的に重要である。
- ・ 知床は世界的に希少な海鳥類の生息地として重要であるとともに、渡り鳥類にとって世界的に重要な地域である。

3) 我が国に対して実施が求められている事項等

(1) 登録後に実施が求められている事項

遺産地域の海域部分の境界線を海岸線1kmから3kmに拡張するための手続が法的に確定した段階で、地図等を世界遺産センターに送付すること。

2008年までに完成させる海域管理計画の策定を急ぐこと。その中では海域保全の強化方策と海域部分の拡張の可能性を明らかにすること。

サケ科魚類へのダムによる影響とその対策に関する戦略を明らかにしたサケ科魚類管理計画を策定すること。

評価書に示されたその他の課題(観光客の管理や科学的調査などを含む)についても対応すること。

登録後2年以内に、海域管理計画の履行の進捗状況と遺産地域の海洋資源の保全効果について評価するための調査団を招くこと。

(2) その他

推薦書の準備に際しての公衆参加や、極めて優れた推薦文書の準備、保全管理の強化を求めたIUCNの勧告への効率的な対応などの過程について高く評価。